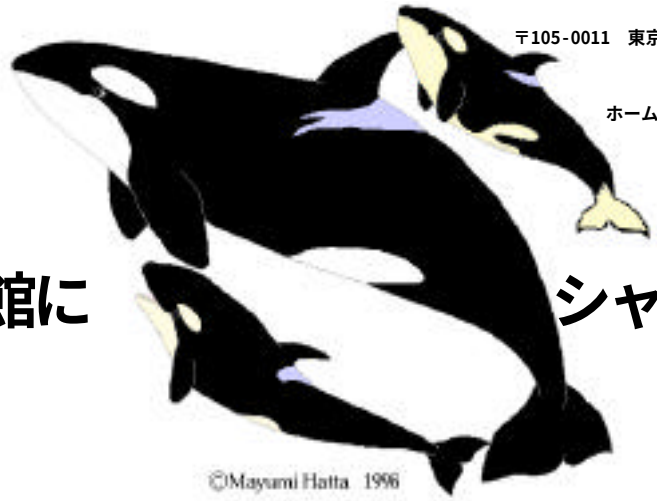
freeOrca 事務局
〒105-0011　東京都港区芝公園2-3-8 第二モリモトビル2F
Tel&Fax : 03-3435-8545
E-Mail : orca@jca.apc.org
ホームページ : http://www.jca.apc.org/~orca/

※freeOrca は、野生のオルカ（シャチ）の自由を守るために、その捕獲に反対する団体・個人が集まって組織されたプロジェクト・チームです。

名古屋港水族館にシャチは必要？



名古屋港水族館（愛知県名古屋市）では現在、2001年開業を目指して大規模な拡張工事が行われています。計画では24,000tのプールが建設され、その中でシャチ、バンドウイルカ、ベルーガ（シロイルカ）を飼育することになっています。これら動物は野生からの捕獲も検討されており、私達は次のような観点からこの計画に強く反対しています。

●シャチやイルカの展示は、たくさんの犠牲の上に成り立っています

水族館の狭く閉ざされた環境は、広大な海で生きるシャチやイルカにとって大変なストレスとなります。野生では50年を越えるシャチの寿命も、水族館ではほとんどの場合捕獲後数年、もしくはわずか数ヶ月で尽きてしまいます。また、野生のイルカを捕獲する場合でも、水族館に運ばれていく数頭のイルカの周りでたくさんのイルカ達がパニックに陥り死んでいます。こうしたことは、水族館のイメージダウンにつながるため一般にはほとんど知られていません。

●水族館にあるのは本当のシャチやイルカの姿ではありません

野生のシャチやイルカを目にするとき、誰もが水族館における姿とのあまりの違いに驚かされます。本来生きるべき環境から切り離された生き物からは、真の姿をうかがい知ることができないからです。たとえば、シャチは5～10頭の群れ(家族)で生活しています。群れには生息する海域に応じてそれぞれ独自の文化(会話や餌のとりかたなど)があり、それは代々親から子へと受け継がれています。このことは、長期間にわたり野生のシャチを観察することにより初めて解明された事実であり、水族館のシャチからは決して知ることはできません。

●世界的に水族館のあり方が見直されています

地球環境の危機が叫ばれる今、私達の価値観にも大きな転換が迫られています。どんな生き物も地球環境という巨大なシステムの一部であり、すべての生き物が密接な関係を持って生きていることに私達はようやく気付きはじめました。そして、生き物を本来生きるべき場所から隔離し、人間の娯楽や金儲けのために消費することへの反省から、現在、世界的に水族館や動物園のありかたは大きく見直され、縮小／廃止が進められています。イギリスでは海洋哺乳動物の飼育が国民の総意で廃止され、アメリカでは映画「フリーウィリー」で活躍したシャチの「ケイコ」を海へ帰すプロジェクトが最終段階に入っています。

＜捕獲されたシャチの死から四年＞

1997年2月、和歌山県太地町で野生のシャチ10頭が捕獲され、うち5頭が各地の水族館に売却されていきました。このニュースはインターネットを通してたちまち世界中に広まりましたが、「シャチを海に帰して」という世界の声もむなしく、捕獲後わずか４ヶ月で5頭のうちメスと子供の2頭が相次いで死にました。

あれから四年。私達は同じ地球上に住むものの一員として2頭の死に責任を持たなければなりません。

＜工事の費用は市民の税金で＞

名古屋港水族館拡張の事業費は200億円にも及び、そのうち２／３が愛知県民と名古屋市民の税金によりまかなわれます。愛知万博と同様、民意を無視して、環境を破壊し、人類の文明の潮流に逆行する事業が公費で行われようとしているのです。

＜名古屋港水族館の事業主体＞
- 名古屋港水族館館長・内田　至　fax: 052-654-7001
- 名古屋港管理組合　fax: 052-653-8611
- 名古屋市長・松原武久　fax: 052-972-4105
- 愛知県知事・神田 真秋　fax: 052-951-1074

●署名のおねがい

こうした世界の動きにもかかわらず、わが国では水族館の需要は高まる一方です。こうした日本のあり方にたいしては、一人でも多くの人たちに、この問題を見つめ直し、反対の声を上げていただくことが必要なのです。みなさんの理解とご協力をお願いします。下に簡単なフォームを用意しました。freeOrca事務局宛にFax又は郵送してください。また直接、反対の意志を名古屋港水族館の事業主体に届けていただければ幸いです。

私は、名古屋港水族館へのシャチ、イルカの導入に反対します。

名前：　　年齢：　　住所：